



放送大学

The Open University of Japan

2018年度

単位互換案内

学生へ豊かな カリキュラムの提供を

- ★リメディアル科目
- ★教養科目の充実
- ★再履修科目
- ★外国語科目の拡充
- ★学芸員対応科目
- ★スクーリングの代替

BSで全国放送!!

インターネットでも視聴可能!!

大学設置基準が平成3年に一部改正され、個々の大学が特色ある教育を展開できるようになり、各大学・短期大学では時代の流れに沿った多彩な高等教育が展開されています。

放送大学教養学部では、全国の国・公・私立大学の教員の協力を得て約300科目の授業科目を開設し、多くの人々のさまざまなニーズに応えています。

また、平成14年から開設された放送大学大学院では、高度専門職業人養成のため、高度な専門的学識及び知的技能を修得できる授業科目を約100科目開設しています。

開設科目は数年ごとに改訂し、最新の学問成果を随時取り入れています。

本学の最大の特徴は、テレビ・ラジオ・インターネットを通して授業が行われることにあります。

BS放送による全国放送に加え、本学が設置している全国の学習センターの利用など、様々な学習形態が可能な側面を活かし、全国の多くの大学等において本学の単位互換制度が利用されています。

この冊子は、放送大学をよりよく知っていただき、貴学が学生に豊かなカリキュラムを提供するための一助となるよう編集したものです。

目次

1.放送大学の単位互換	1
2.単位互換の活用	2
3.単位互換協定締結までの流れ	5
4.履修方法等	8
5.さまざまな制度	10
6.データ集	12
7.Q&A	18
8.学習センターのご案内	20

1. 放送大学の単位互換

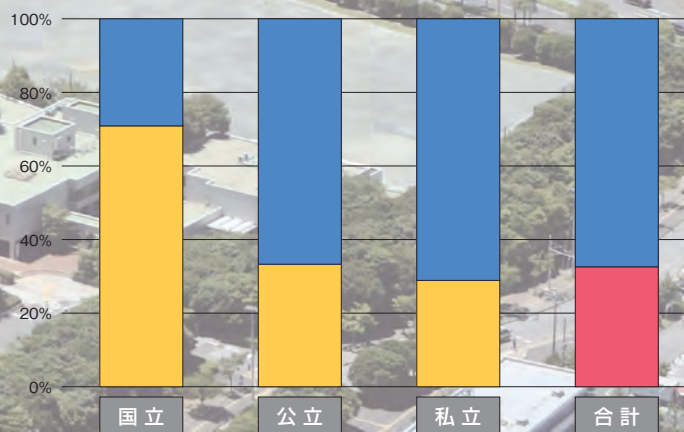
我が国の大学教育においては、知識基盤社会を担う優れた人材を育成することが求められている一方、「大学全入」時代を迎え、学生の知識・学習習慣・学習意欲の多様化に対応していく必要があります。

中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成 20 年 12 月 24 日）においては、各大学が、研究活動や専門教育を重視する一方、基礎教育や共通教育を軽んじる傾向があり、基礎教育や共通教育の望ましい実施・責任体制について、改めて真剣に議論し、適切な対応をとっていく必要があるとし、その観点から、大学間連携において、「放送大学との単位互換も検討する」とされています。

放送大学は、「他大学との単位互換の推進により、わが国の大学教育の改善に資すること」を設置目的の一つに掲げ、各大学との単位互換を通じた教養教育のモデル提供に取り組んでいます。

放送大学と単位互換協定を締結している大学及び短期大学は 371 大学あり、日本国内の全大学・短期大学の約 33%にのびります。さらに大学院とも 8 大学院、高等専門学校とも 15 校で単位互換協定を締結しています（2017 年 11 月 1 日現在）。他大学等から受け入れる学生数は年間で約 5,000 名（延べ約 7,500 科目）に達しており、他大学における教育課程の充実に寄与しています。

設置形態別大学・短期大学に占める協定校の割合



設置形態	国立	公立	私立	合計
全大学・短期大学数	86	105	927	1,118
放送大学単位互換協定締結大学数	61 (70.9%)	35 (33.3%)	275 (29.8%)	371 (33.3%)

全国大学一覧・全国短期大学一覧（平成 28 年度版）等による



2. 単位互換の活用

放送大学の授業はテレビ・ラジオ・インターネットを利用して行われており、全国 57ヶ所の学習センター・サテライトスペースで視聴することもできるため、時間や場所の制約を受けずに学習することが可能です。そのため、貴学の授業日程を妨げずに履修することができます。

なお、放送教材の貸出制度を設けておりますので、貴学内の施設において視聴していただくことも可能です。

■ 受入方法

① 放送大学における学生の身分

貴学の学生を本学の「特別聴講学生」として受け入れます。

② 受入学生数

貴学との協議によって定めます。

③ 履修期間

本学での特別聴講学生の履修期間は 1 学期間（6 か月）です。

④ 履修できる科目の範囲

本学で開講している放送授業の科目から選択していただけます。本学の開講科目は、基本的に 4 年で改訂もしくは閉講となります。2018 年度の開講科目は P 14 以降をご覧ください。

⑤ 修得できる単位数

各設置基準により、単位互換で修得できる単位数は大学 60 単位、短期大学（2 年制）・高等専門学校 30 単位を上限とし、大学院との単位互換では 10 単位を上限としています。その範囲で貴学との協議によって定めます。

⑥ 学 費

入学科：不徴収

授業料：学 部	1 科目（2 単位）	11,000 円
	1 科目（1 単位）	5,500 円
大学院	1 科目（2 単位）	22,000 円

※授業形態には、テレビ・ラジオ・インターネット配信で講義を行う、「放送授業」と、インターネットでのみ講義を行う「オンライン授業」があります。
「放送授業」は、全て 1 科目 2 単位です。

■ 活用事例

教養教育科目の拡充として活用

放送大学では、多様化する学生のニーズに対応するため、「生活と福祉」「心理と教育」「社会と産業」「人間と文化」「情報」「自然と環境」の 6 つのコースを設定し幅広い科目を開講しています。

例えば、工学系の大学であれば、社会系や人文系の科目など、開設の難しい分野の教養教育科目として活用されています。

外国語科目の拡充として利用

放送大学では、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「韓国語」「イタリア語」の 7 言語で、レベルの異なる延べ 15 の外国語科目を開講しています。

放送大学で開講している外国語科目（2018 年度）

英語事始め（'17）／英語で描いた日本（'15）／英語で読む科学（'15）／耳から学ぶ英語（'18）／Walking with Writers（'16）／ドイツ語 I（'15）／ドイツ語 II（'15）／フランス語 I（'18）／フランス語 II（'18）／中国語 I（'18）／中国語 II（'18）／初歩のスペイン語（'17）／韓国語 I（'16）／韓国語 II（'16）／初歩のイタリア語（'17）



リメディアル科目（補習科目）として活用

大学全入時代においては、多くの大学において、大学入試の選抜機能が低下し、入試によって入学者の学力水準を担保することが困難な状態になりつつあるなか、多くの大学で補習・補完授業が実施されています。放送大学では、高等学校での履修内容も網羅した基礎的な科目を開設しています。

放送大学で開設している基礎的な科目の例

初歩からの生物学（'18）／初歩からの物理（'16）／初歩からの化学（'18）／初歩からの数学（'18）／身近な統計（'18）／英語事始め（'17） など

再履修科目として活用

放送大学の授業は、テレビ・ラジオの放送時間に視聴するだけでなく、インターネット配信などの複数の視聴方法があるため、所属大学の授業時間以外の時間を活用し、時間や場所の制約を受けず効率的に学習することが可能です。

教養科目・必修科目・資格関連科目の単位を修得できなかった学生の再履修科目としてぜひご利用ください。

通学に困難な事情がある学生の補助として活用

就職活動で都市圏に滞在する場合や、部活動の遠征等、事情により所属校に一定期間通学ができない学生向けに、補完的な科目として利用されています。

JABEE対応科目として活用

放送大学で開設している「新しい時代の技術者倫理（'15）」は、JABEE（日本技術者教育認定機構）対応科目として利用されています。

昼夜開講制・社会人コース向けの科目として活用

放送大学の授業はテレビ・ラジオを利用して行われ、授業の放送時間に視聴するほか、インターネットや、全国の学習センターなど、多岐にわたる視聴方法を利用することにより、個人の生活スタイルにあわせ時間の制約を受けずに学習することができます。また放送教材の貸出制度を利用し、貴学内の施設において視聴していただくことも可能です。

リカレント教育や生涯学習の重要性が増しているなかで、幅広い世代に向けて制作されている本学の科目が利用されています。

通信制大学のスクーリング科目として活用

放送大学の科目は、大学通信教育設置基準の規定により、放送授業科目（2単位）のうち1単位は面接授業（スクーリング）の単位として代替することが可能です。

大学院修士課程科目として活用

放送大学大学院文化科学研究科修士課程の授業は、学部と同様に、放送授業番組と印刷教材を中心に行われます。高度で実践的な専門知識と能力が求められる大学院においても、単位互換制度が活用されています。

■ 活用事例（各種資格取得科目として）

放送大学では、各種資格取得に必要な科目を開設しています。単位互換により、担当講師を配置することが困難な資格取得科目をご利用いただけます。また、貴学で対応科目を開設する場合でも、「必修科目と開設時間が重なっている」、「科目を開設しているキャンパスとは別のキャンパスで学んでいる」などの理由により、履修が困難な学生のため、貴学開設の科目との「併設科目」としてのご利用も可能です。詳しくは、放送大学 HP をご覧いただくか、担当係までお問い合わせください。

学芸員

放送大学では、平成 24 年 4 月 1 日に施行された博物館法施行規則の改正に対応した『博物館に関する科目』のうち、「博物館実習」以外の科目を開設しています。

放送大学の科目を一部利用し、学芸員課程を設置している単位互換校もあります。

「博物館に関する科目」	必要単位	放送大学対応科目	単位数
生涯学習概論	2	生涯学習を考える（'17）※	2
博物館概論	2	博物館概論（'11）	2
博物館経営論	2	博物館経営論（'13）	2
博物館資料論	2	博物館資料論（'18）※	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論（'12）	2
博物館展示論	2	博物館展示論（'12）	2
博物館教育論	2	博物館教育論（'16）	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論（'18）	2
博物館実習	3		

※「生涯学習を考える（'17）」「博物館資料論（'18）」はオンライン授業科目です。

成績評価：通信指導、単位認定試験および再試験は行いません。

成績評価は、「授業科目案内」等をご確認ください。

受講方法：9 ページを参照ください。

認定心理士

認定心理士とは、心理学に関する標準的基礎知識と基礎技術を修得していることを、「公益社団法人日本心理学会」が認定する資格です。

放送大学では、認定心理士の資格取得のための所定の科目を開設しています。

教員免許

放送大学では、免許法施行規則第 66 条の 6 の対応科目の「事例から学ぶ日本国憲法（'13）」を開設しています。

社会教育主事

放送大学では、社会教育法に定める社会教育に関する科目に相当する科目の一部を開設しています。

社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格は、指定科目を 3 科目以上修得し、大学を卒業することで得られます。

放送大学では、社会福祉主事任用資格の対応科目を開設しています。

また、社会福祉主事任用資格の対応科目を開設していない大学におかれましても、放送大学の対応科目を 3 科目以上受講することで取得できる資格です。

※貴学での単位認定の際、放送大学の科目名称をそのまま利用していただく必要があります。

3. 単位互換協定締結までの流れ

STEP 1

貴学内において本学との単位互換協定についてご検討ください。

【主な検討事項（例）】

- ・ 単位互換に関する諸規程（学則等）の確認
- ・ 履修予定科目及びその科目の貴学カリキュラム上の位置づけ
- ・ 授業料の負担方法 等

予め履修希望者の予備調査などにより貴学学生のニーズを事前に把握いただき、協定が有意義なものとなるようご配慮願います。



STEP 2

単位互換を実施するための諸課題について、大学間で協議を行い、「事前確認事項（次ページ）」を作成いただきます。

※「事前確認事項」の様式(Excelデータ)を本学よりお渡ししますので、お問い合わせください。

【主な協議・確認事項（例）】

- ・ 履修できる授業科目の範囲
- ・ 放送大学が受け入れる学生数（履修予定者数）
- ・ 修得できる単位数
- ・ 視聴方法（視聴施設・設備の概要）
- ・ 単位認定試験の実施場所
- ・ 貴学の学内における特別聴講学生の募集方法
- ・ 「協定書」「覚書」の成文化



STEP 3

貴学において、放送大学との単位互換協定締結について、教授会等で了承を得るなど、学内決定を完了していただきます。

放送大学でも、教授会等で了承を得るなど、学内手続きを進めます。



STEP 4

貴学と本学との間で「協定書」「覚書」に調印します（単位互換協定締結）。



STEP 5

貴学での特別聴講学生募集。

* 貴学と本学との間で協議を開始してから協定締結を経て放送授業の受講を開始するまでの平均的な所要期間は3ヵ月～半年です。



単位互換実施 事前確認事項 (記入例)

(放送大学)

学校名	幕張大学	
設置形態	私立	①
設置場所 (都道府県)	千葉県	
開設学部・学科 (入学定員)	工学部	(100)
	文学部	(100)
	法学部	(100)
	合計	(300)
利用学部・学科 (履修予定者数)	工学部	(20)
	文学部	(20)
	合計	(40)
履修可能単位数	10 単位以内 ③	
履修できる授業科目の範囲	放送授業科目のすべてを履修可能とする ④	
カリキュラム上の位置づけ	本学が指定する放送大学の科目の中から 10 単位までを基礎教育科目として認定する ⑤	
履修開始時期	2018 年度第 1 学期	
授業料の負担方法	大学で全額負担する ⑥	
放送授業の視聴方法	本学内で時間を決めて集団視聴させる ⑦	
単位認定試験の実施場所	本学内で実施する ⑧	
再試験の可否	可	⑨
双方向単位互換の実施有無	無	
(双方向単位互換を実施する際の 人数上限/上限単位数)	無	
協定締結承認予定会議・日	教授会	2018.3.4 ⑩
貴学HPを放送大学HPから リンクすることの可否	可	⑪

① 国立 (大学法人) ・公立 (大学法人) ・私立の別にご記入ください。

② 放送大学と単位互換を行う学部 (学科) と、およその予定人数をご記入ください。

③ 貴学において履修可能な放送大学科目の単位数についてご記入ください。
なお、差し支えなければ貴学において他大学の科目の取得可能単位数が定められている規定 (学則等) を送付願います。

④ ・放送授業科目すべてを履修可能とするのか
・放送授業科目のうち大学で指定した科目について履修可能とするのか
(指定の内容についても差し支えない範囲でご記入ください) についてご記入ください。

⑤ 貴学のカリキュラムにおいて、放送大学の科目をどのように位置づけるのかについてご記入ください。
・認定する科目区分 (〇〇学部専門科目、教養科目など)
・必修科目もしくは選択科目

⑥ 本学の授業料の負担方法についてお答えください。
・学生の全額負担
・大学の全額負担
・大学の半額負担
・大学の条件付き負担 (単位を修得すれば学生に返金) 等

⑦ 学生が学習する際の放送授業の視聴方法についてお答えください。
・学生個人で視聴させる
・大学内で時間を決めて視聴させる 等

⑧ 原則 1 科目につき 40 名以上の履修者がいれば貴学での試験実施が可能です。

⑨ 本学では、時間の都合のつかない社会人学生が多いことから、次学期に限り単位認定試験の再試験を認めておりますが、貴学において再試験の可否を選択することが可能です。

⑩ 単位互換協定の締結について最終的に決定される貴学の会議と、その予定日についてご記入ください。
予定の場合は、確定後改めてご連絡ください。

⑪ 単位互換協定締結後、「単位互換協定締結校」として本学HPより貴学HPへリンクさせていただきたいと考えております。
差し支えなければ許可をいただきたく、よろしく願います。



〇〇大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書（例）

〇〇大学及び放送大学は、双方の大学の規則に定めるところにより、両大学の学生が、それぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認めることとし、次の事項について合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

（受入れ）

第1条 放送大学に在籍する学生が、〇〇大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、〇〇大学長は当該学生を受け入れることができる。

2 〇〇大学に在籍する学生が、放送大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、放送大学長は当該学生を受け入れることができる。

（特別聴講学生）

第2条 両大学は、前条により受け入れた学生を「特別聴講学生」として取り扱う。

（履修期間）

第3条 特別聴講学生の履修期間は、両大学とも1学期間ごととする。

（授業科目の範囲及び単位数）

第4条 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、別に定める。

（学生数）

第5条 両大学の受け入れる学生数は、別に定める。

（受入れ手続）

第6条 特別聴講学生の受入れ手続は、別に定める。

（単位の授与等）

第7条 特別聴講学生の履修方法、単位の授与等については、受入れ大学の学生の場合と同様とする。

（授業料等）

第8条 〇〇大学においては、特別聴講学生の授業料は、〇〇大学〇〇〇〇規程に定める額とする。ただし、選考料及び入学料は徴収しない。

2 放送大学においては、特別聴講学生の授業料は、放送大学学則に定める額とし、入学料は徴収しない。

年 月 日

〇 〇 大 学 長

放 送 大 学 長

〇〇大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書についての覚書（例）

協定書作成の際、さらに下記の内容が合意に達したので、実施に当たって留意する。

記

- 1 受入れ学生数
放送大学が受入れる学生は、〇〇人程度とする。
- 2 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数
 - (1) 履修できる授業科目の範囲
〇〇大学学生が履修できる授業科目は、放送大学で開講するすべての放送及び印刷教材による授業、又はオンライン授業科目のうち、〇〇大学において認めたものとする。
 - (2) 修得できる単位数
〇〇大学学生が、当該学生の在学期間を通じて修得できる単位数は、〇〇単位以内とする。
- 3 出願の手続及び受入れ予定学生の決定
出願の手続及び受入れ予定学生の決定については、次に掲げる要領により取り扱う。
 - (1) 放送大学に特別聴講学生として出願を希望する者は、定められた期日までに出願票及び所定の書類を〇〇大学長を経て放送大学長に提出するものとする。
 - (2) 放送大学長は、前号により希望した者のうちから選考し、受入れ予定学生を決定する。
 - (3) 放送大学長は、前号で決定した学生の氏名を〇〇大学長に通知する。
- 4 受入れの許可
 - (1) 前項第2号により受入れ予定学生と決定した者は、放送大学学則に定める手続を行う。
 - (2) 放送大学長は、前号の手続を完了した者に対し特別聴講学生として受入れを許可する。
 - (3) 放送大学長は、前号で許可した学生の氏名を〇〇大学長に通知する。
- 5 通信指導の再提出及び再試験
放送大学長は、特別聴講学生が放送大学において履修する授業科目の通信指導の再提出及び再試験の受験を、各1回認める。
- 6 成績評価及び単位授与の方法
特別聴講学生が放送大学において履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、放送大学学則の定めるところによる。
- 7 単位認定試験の実施方法
〇〇大学を会場として単位認定試験を実施するに際しては、「放送大学単位認定試験実施要領」に則って行うこととする。
- 8 放送大学は、特別聴講学生が履修に必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。
- 9 この覚書に定めるもののほか、本協定の運営に関し必要な事項は、両大学長間の協議により定める。

年 月 日

〇 〇 大 学 長

放 送 大 学 長



4. 履修方法等

■ 単位修得までの流れ



① 出願
大学等から一括



② 印刷教材の送付
個人宛・学校宛選択可能



③ 放送授業
24時間いつでもインターネットで視聴可能



④ 通信指導
在学生用HPからも提出可能 (Web通信指導)



⑤ 単位認定試験
1科目の受験者が40名以上の場合は貴学で実施可能



⑥ 単位認定

オンライン授業は異なる部分があります。

テレビ・ラジオ・インターネット配信で映像・音声の視聴による放送教材及び印刷教材(テキスト)による学習をあわせて行う「放送授業」と、インターネットのみで実施する「オンライン授業」があります。

■ 出願手続

- ① 年間で2学期(第1学期-4月~9月、第2学期-10月~3月)に分けていますので、出願受付も学期ごとに行います。放送大学より送付する資料をご利用いただくなどして貴学にて募集をしていただきます。
- ② 貴学において「特別聴講学生用出願票」をとりまとめていただき、貴学長から本学長宛てに一括して提出していただきます。
- ③ 本学では、受け入れ予定の学生を確定し、本人と貴学長宛に通知します。
- ④ 所定の入学手続を完了した者に、入学を許可し、本人と貴学長宛に通知します。(③の学生本人宛、③④の貴学長宛の各通知に関しましては、授業料の支払い方法(個人支払・学校一括支払)の別により通知内容が異なります。)

■ 放送授業

すべて印刷教材(テキスト)が用意されており、放送教材を視聴することと印刷教材による学習を併せて進めます。

放送授業には、テレビ科目とラジオ科目があり、いずれの科目も1回45分の講義が15回で、学期ごとに完結します。視聴方法は、放送、インターネット配信、学習センター、所属大学等における視聴等があります。

原則として毎週同一の曜日・時間帯(週1回・1回45分)にテレビ・ラジオで放送します。(インターネット配信は、次ページ参照)

● 通信指導

授業の一部として、各学期途中で1回一定の範囲で出題されます。郵送またはインターネット(対応科目に限る)で答案を大学に提出し、添削結果により単位認定試験の受験資格を得ることができます。(通信指導未提出または不合格の場合は、単位認定試験を受けることができません。)

※放送授業の一部の科目は、通信指導の提出がWebに限定されております。そのため、これらの科目については、通信指導問題の冊子での送付、受付はしておりません。

● 単位認定試験

単位認定試験は、各学期の放送授業が終了した後、所属する各学習センター・サテライトスペースで全国一斉に実施します。単位認定試験の時間割は冊子『授業科目案内』に掲載されていますので、科目登録の際にご確認ください。1科目の受験者が多数の場合は、貴学で試験を実施することもできます。

■ オンライン授業

オンライン授業は、インターネット上で講義を視聴、小テストやディスカッション、レポート等の課題を科目ごとに決められた期間に提出して学びを進めます。成績評価は、単位認定試験に合格した者又は学習状況が良好で、かつ課題に解答し、学習成果が認められた者には所定の単位が与えられます。オンライン授業の受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。また、授業の実施方法は科目により異なります。

■ 成績通知

本人と貴学長宛に学期末(第1学期は8月下旬、第2学期は2月下旬)に「成績通知書」によって通知します。

なお、成績評価は、ⒶABC(合格)DE(不合格)の評語によって行います。

成績通知に基づき、貴学での単位として認定していただきます。

■ 2018年度の主なスケジュール (予定)

	第1学期	第2学期
出願期間	12月1日~2月28日最終締切 (枠入学:4月上旬締切) ^{※1}	6月15日~8月31日最終締切 (枠入学:10月上旬締切) ^{※1}
授業期間	4月1日~7月21日	10月1日~1月20日
通信指導提出期限	6月7日	11月30日
単位認定試験期間(学部)	7月29日~8月5日 ^{※2}	1月25日~2月2日 ^{※2}

※1 通常出願では、2月上旬/8月上旬に一度締切りを設けていますが、条件付きで2月末/8月末まで出願を受け付けます。

※2 単位認定試験の試験日・時限の重複する科目は受講できません。



■ 放送授業の視聴方法

放送授業は下記の方法で視聴することができます。時間や場所にしばられない履修が可能です。

B S 放 送

BS放送で放送授業を視聴できます。

アンテナやBSチューナーなどの視聴環境を整えれば、授業番組の視聴には費用はかかりません。

テレビ **231ch** ラジオ **531ch**

地 上 放 送

関東の一部エリアのみの放送です。

テレビ

リモコン番号 12
(UHF28ch)

ラジオ

FM77.1MHz (東京放送局)

FM78.8MHz (前橋放送局)

※地形・建造物の状況によって受信できないことがあります。また、他の放送局からの電波によりごく一部で受信障害がおこるおそれがあります。受信状況は必ずご確認ください。

地上デジタル放送およびFMラジオ放送は、2018年9月末で終了予定。

ケ ー ブ ル テ レ ビ

放送大学の番組を放送しているケーブルテレビに加入されますと、アンテナ等をご用意いただくなくても視聴できます。視聴方法等については、お近くのケーブルテレビにお問い合わせください。

イ ン タ ー ネ ッ ト 配 信

放送大学特別聴講学生の方は、パソコンやスマートフォンなどで、開設期間中の放送授業をいつでも視聴できます*。ただし、ストリーミング配信ですので、パソコン等に映像や音声を保存することはできません。

なお、2018年度新規開設科目(科目名の末尾が「('18)」)については、配信予定です。視聴方法の詳細については、本学ホームページをご覧ください。

※美術・芸術学研究('13)【大学院科目】は対象外です。

インターネットラジオ radiko.jp

ラジオ科目をパソコン、スマートフォンなどで放送と同時に聴ける「radiko」(ラジコ)もご利用いただけます。詳しくは、<http://radiko.jp/> をご覧ください。

学 習 セ ン タ ー

放送大学には全国に57の大学施設があり、放送授業の視聴や印刷教材の閲覧も可能です。

特別聴講学生の方も、放送授業の視聴など自由に利用することができます。

※P20の「学習センターのご案内」をご参照ください。

貴 学 で の 視 聴

単位互換協定締結校には放送教材(DVD・CD)の貸出制度があります。この制度を利用して貴学内の特定場所(図書館など)で放送教材を管理していただき、貴学授業の空き時間などに自由に視聴していただくこともできます。

また、貸出放送教材により集団視聴を実施していただくことも可能です。

■ オンライン授業の受講方法

イ ン タ ー ネ ッ ト

平成27(2015)年4月からオンライン授業を開設しました。詳細はお問い合わせいただくか、別冊の「授業科目案内(教養学部)」をご参照ください。

※オンライン授業は、インターネットによる受講となります。受講にはインターネット接続されたパソコン(Windows)とWebブラウザ(Internet Explorerなど)、Adobe Flash Player最新版が必要です。また、パソコン(Mac OSX)とWebブラウザ(Safari)にも対応しています。モバイル端末でも映像教材の閲覧は可能ですが、全ての端末に対応してはなりません。

各科目の文字情報による教材を閲覧するには、Adobe Reader最新版のインストールが必要です。

閲覧方法・学習方法の詳細は、本学ホームページに掲載しています。

受 講 可 能 期 間

2018年4月もしくは10月から、単位認定試験終了時までとします。(予定)



5. さまざまな制度

放送大学との単位互換をよりよくご活用いただくために、通常の単位互換制度の内容を一部変更したいくつかの特別制度を設けております。各制度を組み合わせたご利用も可能です。制度の利用にあたっては、通常の出願とは別に事前の手続きなどが必要となります。制度の詳細につきましては、担当係へお問い合わせください。

(なお、これらの特別制度につきましては、学期ごとに利用の有無を照会させていただきます。)

① 枠入学制度 — 学期開始後でも出願・入学が可能 —

概要

放送大学における特別聴講学生の出願期間中（1 学期 / 2 月上旬・2 学期 / 8 月上旬）に受講者を確定できない場合、通常の出願期間内に貴学より事前申請を行うことにより、一定数の入学予定者枠を確保しておき、学期開始後（1 学期 / 4 月上旬・2 学期 / 10 月上旬）に受講者を確定し、出願・入学することができる制度です。

事前の貴学からの申請により学習に必要な印刷教材・貸出用放送教材を学期開始までに送付することで、スムーズに学習を開始することが可能です。

活用例

- 新入生を集団で履修させる場合（1 年次 1 学期での利用）
- 再履修科目として利用（前学期の貴学での成績発表後に放送大学科目の履修決定ができ、次学期に再履修科目の履修が可能となる）

② 学外試験場制度 — 貴学内にて単位認定試験の受験が可能 —

概要

1 科目の受験者が一定数（原則として 40 名程度）を超える場合は、貴学を試験会場とし、貴学の教職員を監督員等として委嘱し試験を実施することができます。

利点

- 試験を受験する学習センターが遠方の場合、学生の利便性が向上
- 貴学の試験日程と重ならないよう試験日を調整することが可能



③教育協力型単位互換制度 —放送大学の授業科目を組織的に利用いただくために—

教育協力型単位互換とは、放送大学の授業科目について、履修上の位置づけ等を行い、放送大学との単位互換について組織的に取り組んでいただける大学等に対して、その取り組み内容に応じ、「教育協力費」をお支払いするものです。

単位互換協定を締結いただいている大学等で下記の実施要件を満たし、教育協力型単位互換を実施希望の大学等はお問い合わせください。

例えばこのような利用方法をお考えの大学等に適しています。

- ・学芸員養成課程の博物館に関する科目の一部に放送大学科目を利用し、継続的に毎年20名以上の入学者が見込める場合。
- ・JABEE対応科目「技術者倫理」に放送大学科目を利用し、継続的に毎年100名以上の科目登録が見込める場合。
- ・教養科目の一部に放送大学科目を利用し、貴学の教育課程内に放送大学科目を1科目以上修得することと位置づけている場合。など

教育協力業務の内容

1. 放送大学の授業科目について、履修上何らかの位置づけを行っていただきます。
2. 放送大学の科目登録者数が年間で延べ100名以上もしくは、20名以上の入学者を登録いただきます。(2学期から開始する場合、1学期間(10月～翌3月))
3. 以下の(1)～(5)の業務を実施していただきます。

(1) 出願その他履修のために必要な業務

放送大学との連絡窓口の設置、放送大学科目の履修ガイダンスの実施、出願書類や通信指導のとりまとめ、授業料の一括納付を行っていただきます。

また、放送大学から、登録された科目のDVD・CDを貸し出しますので、集団で視聴できる環境を確保いただき、単位認定試験までに計画的に視聴を実施していただきます。

(2) 単位認定試験の実施

単位認定試験について、会場を確保していただくとともに、試験監督、試験監督補助員を配置していただきます。

(3) TA等(教育補助職員)の配置

放送大学の授業科目を履修する学生に対する学習支援、学習相談の窓口となること等、受講生をサポートするための教育補助職員を配置していただきます。

(4) 担当教員の配置

放送大学の授業科目の選定や、学生の学習指導等に対応できる教員を配置していただきます。

(5) 授業評価の実施

放送大学が用意する授業評価調査票を受講した学生に記入してもらい、その結果を取りまとめ、機関としての評価を行っていただきます。

実施スケジュール

基本的には放送大学との通常の単位互換と同様のスケジュールで行いますが、教育協力型単位互換を実施するための特別な業務(契約締結業務、授業評価等)を行っていただく必要があります。



6. データ集

○大 学 (284校)

北海道 (10)	北海道教育大学 帯広畜産大学 旭川医科大学 北見工業大学 札幌市立大学 札幌国際大学 函館大学 北海学園大学 北海道情報大学 (通信教育部) 酪農学園大学
青森県 (2)	弘前大学 八戸学院大学
岩手県 (2)	岩手大学 盛岡大学
宮城県 (14)	東北大学 宮城教育大学 宮城大学 石巻専修大学 尚絅学院大学 仙台大学 仙台白百合女子大学 東北学院大学 東北工業大学 東北生活文化大学 東北福祉大学 東北文化学園大学 東北医科薬科大学 宮城学院女子大学
秋田県 (2)	秋田大学 秋田県立大学
山形県 (6)	山形大学 山形県立保健医療大学 山形県立米沢栄養大学 東北芸術工科大学 東北公益文科大学 東北文教大学
福島県 (8)	福島大学 会津大学 福島県立医科大学 いわき明星大学 郡山女子大学 東日本国際大学 福島学院大学 日本大学 (工学部)
茨城県 (4)	茨城大学 筑波技術大学 茨城キリスト教大学 筑波学院大学
栃木県 (10)	宇都宮大学 足利工業大学 宇都宮共和大学 国際医療福祉大学 作新学院大学 自治医科大学 獨協医科大学 白鷲大学 文星芸術大学 帝京大学 (理工学部)
群馬県 (5)	群馬大学 群馬県立女子大学 関東学園大学 共愛学園前橋国際大学 上武大学
埼玉県 (12)	埼玉大学 埼玉県立大学 共栄大学 埼玉学園大学 十文字学園女子大学

埼玉県	聖学院大学 西武文理大学 獨協大学 人間総合科学大学 ものづくり大学 文京学院大学 目白大学
千葉県 (29)	千葉大学 千葉県立保健医療大学 愛国学園大学 植草学園大学 江戸川大学 開知国際大学 川村学園女子大学 神田外語大学 敬愛大学 国際武道大学 三育学院大学 秀明大学 淑徳大学 城西国際大学 聖徳大学 清和大学 千葉科学大学 千葉経済大学 千葉工業大学 千葉商科大学 中央学院大学 東京基督教大学 東京情報大学 明海大学 麗澤大学 和洋女子大学 帝京平成大学 東京成徳大学 東洋学園大学
東京都 (25)	東京医科歯科大学 東京農工大学 東京海洋大学 電気通信大学 桜美林大学 嘉悦大学 北里大学 産業能率大学 実践女子大学 順天堂大学 創価大学 大東文化大学 多摩大学 帝京科学大学 東京家政大学 東京工科大学 東京女学館大学 東京聖栄大学 東京電機大学 東京未来大学 東洋大学 二松学舎大学 日本女子大学 文化学園大学 武蔵野大学
神奈川県 (12)	横浜国立大学 麻布大学 神奈川工科大学 湘南工科大学 洗足学園音楽大学 鶴見大学 田園調布学園大学 桐蔭横浜大学

神奈川県	フェリス学院大学 横浜商科大学 東海大学 東京工芸大学
新潟県 (6)	新潟大学 上越教育大学 長岡造形大学 新潟県立大学 敬和学園大学 新潟リハビリテーション大学
富山県 (2)	富山県立大学 高岡法科大学
石川県 (11)	金沢大学 石川県立大学 石川県立看護大学 金沢美術工芸大学 金沢医科大学 金沢学院大学 金沢工業大学 金沢星稜大学 金城大学 北陸大学 北陸学院大学
福井県 (3)	福井大学 福井県立大学 福井医療大学
山梨県 (2)	山梨大学 山梨学院大学
長野県 (4)	信州大学 長野県看護大学 清泉学院大学 松本大学
岐阜県 (11)	岐阜大学 岐阜県立看護大学 岐阜薬科大学 朝日大学 岐阜医療科学大学 岐阜経済大学 岐阜女子大学 岐阜聖徳学園大学 中京学院大学 中部学院大学 東海学院大学
静岡県 (4)	静岡大学 浜松医科大学 静岡産業大学 聖隷クリストファー大学
愛知県 (6)	愛知大学 愛知淑徳大学 愛知みずほ大学 東海学園大学 豊田工業大学 名古屋商科大学
三重県 (3)	三重大学 鈴鹿大学 鈴鹿医療科学大学
滋賀県 (2)	滋賀大学 滋賀医科大学
京都府 (5)	京都美術工芸大学 京都女子大学 同志社女子大学 立命館大学 龍谷大学
大阪府 (7)	大阪大学 大阪教育大学 追手門学院大学 大阪学院大学 (通信教育部) 大阪産業大学 関西福祉科学大学



2018年度開設授業科目一覧

●(赤丸): 1単位科目

TV: テレビ科目^(注) R: ラジオ科目^(注) OL: オンライン科目 青字: 2018年度開設・改訂科目
注: インターネット配信対象(科目名の末尾が「(18)」については配信予定)

○教養学部

基礎科目

区分	科目名	対応
基礎科目	運動と健康 ('18)	TV
	小学校外国語教育教授基礎論 ('17)	OL
	市民自治の知識と実践 ('15)	R
	問題解決の進め方 ('12)	TV
	国際理解のために ('13)	R
	自然科学はじめの ('15)	TV
	日本語リテラシー ('16)	TV
	日本語アカデミックライティング ('17)	R
	日本語リテラシー演習 ('18) ●	OL
	遠隔学習のためのパソコン活用 ('17)	TV
	情報学へのとびら ('16)	TV
	初歩からの数学 ('18)	TV
	身近な統計 ('18)	TV
	英語事始め ('17)	R
	耳から学ぶ英語 ('18)	R
	英語で描いた日本 ('15)	TV
	英語で読む科学 ('15)	R
	Walking with Writers ('16)	TV
外国語	ドイツ語I ('15)	TV
	ドイツ語II ('15)	R
	フランス語I ('18)	TV
	フランス語II ('18)	R
	中国語I ('18)	TV
	中国語II ('18)	R
	韓国語I ('16)	TV
	韓国語II ('16)	R
	初歩のスペイン語 ('17)	R
	初歩のイタリア語 ('17)	TV

導入科目

区分	科目名	対応
生活と福祉	生活経済学 ('16)	R
	生活における地理空間情報の活用 ('16)	TV
	女性のキャリアデザイン入門 ('16) ●	OL
	生活者のための不動産学への招待 ('18)	TV
	健康と社会 ('17)	R
	市民のための健康情報学入門 ('13)	R
	疾病の成立と回復促進 ('17)	TV
	疾病の回復を促進する薬 ('17)	TV
	人体の構造と機能 ('18)	TV
	睡眠と健康 ('17)	R
	がんを知る ('16)	OL
	感染症と生体防御 ('18)	R
	がんとともに生きる ('18) ●	OL
	社会福祉への招待 ('16)	TV
	貧困と社会 ('15)	R
	社会統計学入門 ('18)	R
	教育学入門 ('15)	R
	教育の社会学 ('15)	TV
戦後日本教育史 ('18)	R	
発達科学の先人たち ('16)	R	
学校と社会を考える ('17)	OL	
心理と教育へのいざない ('18)	R	
教育心理学概論 ('14)	R	
発達心理学概論 ('17)	R	
心理学概論 ('18)	TV	
人格心理学 ('15)	TV	

導入科目 (つづき)

区分	科目名	対応
倫理	社会統計学入門 ('18)	R
	総合人類学としてのヒト学 ('18)	R
	都市と地域の社会学 ('18)	R
	経済学入門 ('13)	R
	社会調査の基礎 ('15)	TV
	社会統計学入門 ('18)	R
	社会学入門 ('16)	TV
	法学入門 ('18)	R
	事例から学ぶ日本国憲法 ('13)	TV
	政治学へのいざない ('16)	R
社会と産業	グローバル化と私たちの社会 ('15)	R
	経営学概論 ('18)	R
	現代会計 ('16)	TV
	新しい時代の技術者倫理 ('15)	TV
	技術経営の考え方 ('17)	R
	環境問題のとらえ方と解決方法 ('17)	R
	現代人文地理学 ('18)	TV
	情報・メディアと法 ('18)	R
	哲学・思想を今考える ('18)	R
	西洋哲学の起源 ('16)	R
人間と文化	歴史と人間 ('14)	TV
	日本の近現代 ('15)	R
	ヨーロッパの歴史I ('15)	TV
	日本文学における古典と近代 ('18)	R
	『古事記』と『万葉集』 ('15)	R
	世界文学への招待 ('16)	TV
	日本語とコミュニケーション ('15)	TV
	ラテン語の世界 ('16)	R
	新しい言語学 ('18)	R
	博物館概論 ('11)	TV
情報	現代人文地理学 ('18)	TV
	総合人類学としてのヒト学 ('18)	R
	計算事始め ('13)	TV
	デジタル情報と符号の理論 ('13)	TV
	日常生活のデジタルメディア ('18)	TV
	情報ネットワーク ('18)	OL
	情報・メディアと法 ('18)	R
	社会統計学入門 ('18)	R
	初歩からの生物学 ('18)	TV
	生物環境の科学 ('16)	TV
自然と環境	初歩からの物理 ('16)	TV
	初歩からの化学 ('18)	TV
	化学結合論-分子の構造と機能 ('17)	TV
	物理の世界 ('17)	TV
	はじめての気象学 ('15)	TV
	初歩からの宇宙の科学 ('17)	TV
	ダイナミックな地球 ('16)	TV
	入門線型代数 ('14)	TV
	入門微分積分 ('16)	TV
	環境問題のとらえ方と解決方法 ('17)	R
人体の構造と機能 ('18)	TV	
感染症と生体防御 ('18)	R	
社会統計学入門 ('18)	R	

専門科目

区分	科目名	対応
生活と福祉	生活環境と情報認知 ('15)	TV
	リスク社会のライフデザイン ('14)	R
	人口減少社会の構想 ('17)	TV
	ソーシャルシティ ('17)	TV
	食と健康 ('18)	TV
	食安全性学 ('14)	TV
	臨床家族社会学 ('14)	R
	女性のキャリアデザインの展開 ('17)	OL
	リスクコミュニケーションの現在 ('18)	R
	公衆衛生 ('15)	R
	健康長寿のためのスポーツロジー ('15)	TV
	認知症と生きる ('15)	TV
	リハビリテーション ('13)	R
	今日のメンタルヘルス ('15)	TV
	看護学概説 ('16)	R
	基礎看護学 ('16)	TV
	在宅看護論 ('17)	TV
	災害看護学・国際看護学 ('14)	TV
看護管理と医療安全 ('18)	R	
専門科目	少子社会の子ども家庭福祉 ('15)	TV
	高齢期の生活と福祉 ('15)	R
	障害を知り共生社会を生きる ('17)	TV
	地域福祉の現状と課題 ('18)	TV
	社会保険のしくみと改革課題 ('16)	R
	社会福祉実践の理論と実際 ('18)	R
	社会福祉の国際比較 ('15)	TV
	民法 ('17)	R
	家族と高齢社会の法 ('17)	TV
	雇用社会と法 ('17)	R
	生物の進化と多様化の科学 ('17)	TV
	生涯学習を考える ('17)	OL
	地域コミュニティと教育 ('18)	TV
	現代の家庭教育 ('18)	R
	現代社会の児童生徒指導 ('17)	TV
	乳幼児の保育・教育 ('15)	R
	学校と法 ('16)	R
	日本の教育改革 ('15)	R
子ども・青年の文化と教育 ('17)	R	
カリキュラムと学習過程 ('16)	R	
道徳教育の方法 ('15)	R	
肢体不自由児の教育 ('14)	TV	
特別支援教育基礎論 ('15)	R	
特別支援教育総論 ('15)	R	
知的障害教育総論 ('15)	R	
現代日本の教師-仕事と役割- ('15)	R	
幼児教育の指導法 ('15)	R	
教育課程の意義及び編成の方法 ('15) ●	OL	
幼児理解の理論及び方法 ('15) ●	OL	
生理心理学 ('18)	TV	
錯覚の科学 ('14)	TV	
認知心理学 ('13)	TV	
乳幼児心理学 ('16)	TV	
交通心理学 ('17)	TV	
心理統計法 ('17)	TV	
比較認知科学 ('17)	R	
心理学研究法 ('14)	R	
社会心理学 ('14)	R	

放送大学の科目区分

基盤科目

放送大学のすべてのコースにおける学習するために必要となる基礎的な能力あるいはリテラシーを身に付けることを目標とした科目です。

導入科目

各コースで開設される科目を効率的に学習するために、コースを構成する各学問領域の導入的知識及びそこで求められる基礎的な能力を身に付けることを目標とした科目です。

専門科目

導入における各学問領域の基礎的な知識、能力の修得を前提にして、それをさらに深く、各コースの学問分野についての、専門的な知識、分析手法、思考方法を身に付けることを目標とした科目です。

総合科目

学際的な知識、分析手法を身に付け、複数の学問領域から異なる視点に立つ分析を通して、単一の学問領域内での学習を超えた、教養学部ならではの複眼的な視点を養うことを目標とした科目です。

専門科目 (つづき)

区分	科目名	メディア
心理と教育	危機の心理学 ('17)	TV
	学力と学習支援の心理学 ('14)	TV
	心理臨床の基礎 ('14)	R
	心理カウンセリング序説 ('15)	R
	精神分析とユング心理学 ('17)	R
	認知行動療法 ('14)	TV
	心理臨床とイメージ ('16)	TV
	心理臨床と身体の病 ('16)	TV
	乳幼児・児童の心理臨床 ('17)	TV
	思春期・青年期の心理臨床 ('13)	R
専門	中高年の心理臨床 ('14)	R
	ソーシャルシティ ('17)	TV
	女性のキャリアデザインの展開 ('17)	OL
	障害を知り共生社会を生きる ('17)	TV
	教育のためのICT活用 ('17)	TV
	リスクコミュニケーションの現在 ('18)	R
	都市と地域の社会学 ('18)	R
	博物館情報・メディア論 ('18)	TV
	都市と地域の社会学 ('18)	R
	移動と定住の社会学 ('16)	TV
目	社会と銀行 ('14)	TV
	現代経済学 ('13)	TV
	都市と農村からみる身近な経済 ('18)	R
	グローバル経済史 ('18)	TV
	財政と現代の経済社会 ('15)	TV
	市民生活と裁判 ('18)	TV
	刑事法 ('16)	R
	民法 ('17)	R
	行政法 ('18)	R
	家族と高齢社会の法 ('17)	TV
科	日本政治思想史 ('17)	R
	国際法 ('14)	R
	著作権法 ('18)	R
	雇用社会と法 ('17)	R
	現代日本の政治 ('15)	TV
	日本政治外交史 ('13)	TV
	現代の行政と公共政策 ('16)	R
	現代の国際政治 ('18)	TV
	東アジアの政治社会と国際関係 ('16)	R
	パレスチナ問題 ('16)	TV
社会と産業	ロシアの政治と外交 ('15)	R
	マーケティング論 ('17)	TV
	国際経営 ('13)	R
	管理会計 ('18)	R
	初級簿記 ('16)	R
	ファイナンス入門 ('17)	TV
	ケースで学ぶ現代経営学 ('12)	TV
	現代の内部監査 ('17)	TV
	NPOマネジメント ('17)	R
	大学マネジメント論 ('14)	R
フードシステムと日本農業 ('18)	R	
業	グローバル化と日本のものづくり ('15)	TV
	アジア産業論 ('17)	R
	地球温暖化と社会イノベーション ('18)	TV
	物質・材料工学と社会 ('17)	TV
	地域と都市の防災 ('16)	TV
	住まいの環境デザイン ('18)	TV

専門科目 (つづき)

区分	科目名	メディア
社会と産業	環境の可視化 ('15)	TV
	都市・建築の環境とエネルギー ('14)	TV
	リスクコミュニケーションの現在 ('18)	R
	社会福祉実践の理論と実際 ('18)	R
	地域福祉の現状と課題 ('18)	TV
	地域コミュニティと教育 ('18)	TV
	メディア論 ('18)	TV
	現代フランス哲学に学ぶ ('17)	R
	経験論から言語哲学へ ('16)	R
	現代の危機と哲学 ('18)	R
人間	日本仏教を捉え直す ('18)	R
	西洋芸術の歴史と理論 ('16)	TV
	日本美術史の近代とその外部 ('18)	TV
	西洋音楽史 ('13)	R
	舞台芸術の魅力 ('17)	TV
	日本の古代中世 ('17)	TV
	日本近世史 ('13)	R
	韓国朝鮮の歴史 ('15)	R
	歴史からみる中国 ('13)	TV
	東南アジアの歴史 ('18)	R
文化	ヨーロッパの歴史II ('15)	TV
	南北アメリカの歴史 ('14)	TV
	考古学 ('18)	TV
	日本文学の名作を読む ('17)	R
	『方丈記』と『徒然草』 ('18)	TV
	上田秋成の文学 ('16)	R
	ヨーロッパ文学の読み方ー古典篇 ('14)	R
	日本語概説 ('15)	TV
	文学批評への招待 ('18)	R
	文化人類学 ('14)	TV
情報	フィールドワークと民族誌 ('17)	OL
	博物館教育論 ('16)	R
	博物館資料論 ('18)	OL
	博物館資料保存論 ('12)	TV
	博物館展示論 ('16)	TV
	博物館情報・メディア論 ('18)	TV
	博物館経営論 ('13)	R
	生涯学習を考える ('17)	OL
	心理統計法 ('17)	TV
	比較認知科学 ('17)	R
情報	日本政治思想史 ('17)	R
	都市と農村からみる身近な経済 ('18)	R
	都市と地域の社会学 ('18)	R
	グローバル経済史 ('18)	TV
	現代の国際政治 ('18)	TV
	メディア論 ('18)	TV
	データ構造とプログラミング ('18)	TV
	コンピュータの動作と管理 ('17)	TV
	コンピュータとソフトウェア ('18)	TV
	アルゴリズムとプログラミング ('16)	R
Javaプログラミングの基礎 ('16)	OL	
情報	問題解決の数理 ('17)	TV
	データの分析と知識発見 ('16)	TV
	記号論理学 ('14)	TV
	数値の処理と数値解析 ('14)	R
	CGと画像合成の基礎 ('16)	R
	映像コンテンツの制作技術 ('16)	TV

専門科目 (つづき)

区分	科目名	メディア	
情報	デジタル情報の処理と認識 ('18)	TV	
	自然言語処理 ('15)	R	
	コンピュータと人間の接点 ('18)	TV	
	教育のためのICT活用 ('17)	TV	
	ユーザ調査法 ('16)	TV	
	情報社会のユニバーサルデザイン ('14)	TV	
	情報化社会と教育 ('14)	R	
	感性工学入門 ('16)	OL	
	メディアと知的財産 ('16)	OL	
	メディア論 ('18)	TV	
報	身近なネットワークサービス ('16)	TV	
	情報セキュリティと情報倫理 ('18)	TV	
	通信概論 ('14)	R	
	Webのしくみと応用 ('15)	TV	
	データベース ('17)	TV	
	著作権法 ('18)	R	
	博物館情報・メディア論 ('18)	TV	
	解析入門 ('18)	R	
	生命分子と細胞の科学 ('13)	TV	
	生物の進化と多様化の科学 ('17)	TV	
専門	植物の科学 ('15)	TV	
	動物の科学 ('15)	TV	
	力と運動の物理 ('13)	TV	
	場と時間空間の物理 ('14)	TV	
	量子と統計の物理 ('15)	TV	
	分子分光学 ('15)	TV	
	現代を生きるための化学 ('18)	R	
	化学反応論ー分子の変化と機能 ('17)	TV	
	エントロピーからはじめる熱力学 ('16)	R	
	物理演習 ('16)	OL	
目	宇宙とその進化 ('15)	TV	
	太陽と太陽系の科学 ('18)	TV	
	非ユークリッド幾何と時空 ('15)	TV	
	微分方程式 ('17)	TV	
	統計学 ('13)	R	
	数学の歴史 ('13)	TV	
	線型代数学 ('17)	R	
	解析入門 ('18)	R	
	物質・材料工学と社会 ('17)	TV	
	問題解決の数理 ('17)	TV	
自然と環境	食と健康 ('18)	TV	
	地球温暖化と社会イノベーション ('18)	TV	
	データ構造とプログラミング ('18)	TV	
	コンピュータとソフトウェア ('18)	TV	
	デジタル情報の処理と認識 ('18)	TV	
	総合科目		
	区分	科目名	メディア
	総合科目	社会福祉と法 ('16)	R
		レジリエンスの諸相 ('18)	TV
		死生学のフィールド ('18)	R
地域包括ケアシステムと在宅医療 ('18)		OL	
音を追及する ('16)		R	
色と形を探究する ('17)		TV	
権力の館を考える ('16)		TV	
海からみた産業と日本 ('16)	R		

●(青丸)：インターネット配信をしていない科目

● 1単位科目

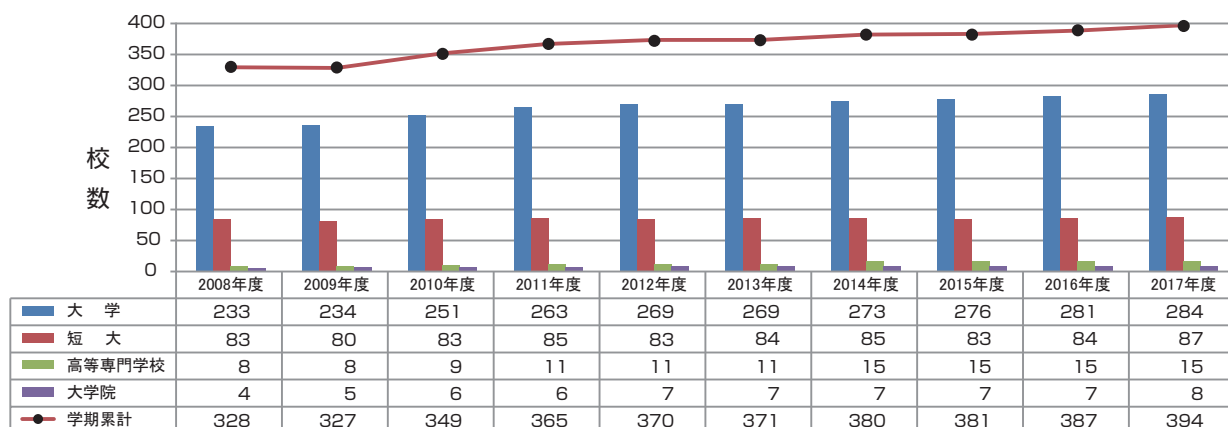
TV：テレビ科目(注) R：ラジオ科目(注) OL：オンライン科目 青字：2018年度開設・改訂科目

注：●(青丸)を除き、インターネット配信対象(科目名の末尾が「(18)」については配信予定)

○大学院文化科学研究科文化科学専攻(修士課程)

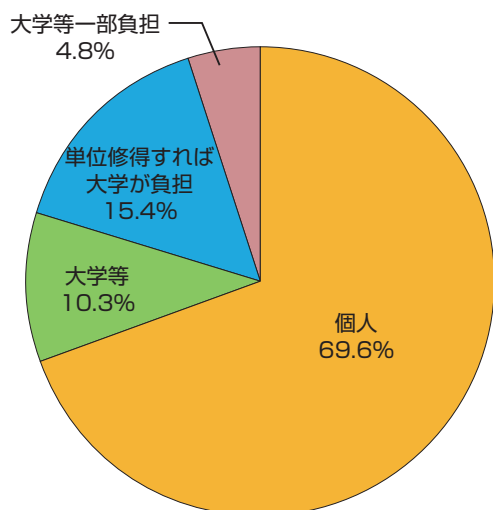
区分	科目名	メディア	区分	科目名	メディア
生活健康科学プログラム	生活ガバナンス研究('15)	R	社会経営科学プログラム	公共哲学('17)	R
	家族生活研究('15)	R		経済政策('17)	R
	食健康科学('15)	TV		現代訴訟法('17)	R
	健康科学('15)	R		イランとアメリカ('17)	OL
	生活リスクマネジメント('17)	R		地域の発展と産業('15)	R
	精神医学特論('16)	R		公共政策('17)	R
	ヘルスリサーチの方法論('13)	R		都市社会構造論('18)	R
	スポーツ・健康医科学('15)	R		環境工学('13)	TV
	健康・スポーツ科学研究('17)	R		人的資源管理('18)	R
	福祉政策の課題('18)	R		社会的協力論('14)	R
	生活変動と社会福祉('18)	R	人文学プログラム	道を極める—日本人の心の歴史('16)	R
	医療安全学特論('16)●	OL		美学・芸術学研究('13)●	TV
	臨床推論('16)●	OL		日本史史料論('15)	R
	フィジカルアセスメント特論('16)●	OL		東アジア近世近代史研究('17)	R
	臨床病態生理学特論('17)●	OL		アフリカ世界の歴史と文化('13)	R
	疾病・臨床病態概論('17)	OL		国文学研究法('15)	R
	臨床薬理学特論('17)●	OL		中世・ルネサンス文学('14)	R
	特定行為実践特論('17)●	OL		異言語との出会い('17)	R
	特定行為共通科目統合演習('17)●	OL		人類文化の現在：人類学研究('16)	TV
生活環境情報学基礎演習('18)	OL	情報学プログラム		音楽・情報・脳('17)	R
人間発達科学プログラム	人間発達論特論('15)		R	ソフトウェア工学('13)	R
	教育行政と学校経営('16)		R	研究のためのICT活用('17)	OL
	生涯学習の新たな動向と課題('18)		R	情報学の技術('18)	R
	海外の教育改革('15)		R	データベースと情報管理('16)	R
	カリキュラム編成論('17)		R	eラーニングの理論と実践('16)	OL
	教育文化の社会学('17)		R	コンピューティング('15)	R
	道德教育の理念と実践('16)		R	知的創造サイクルの法システム('14)	R
	成人発達心理学('17)		R	データの科学('17)	OL
	現代社会心理学特論('15)		R	知能システム論('18)	OL
	教育心理学特論('18)	R	情報化社会とボランティア活動('18)	OL	
	学校臨床心理学・地域援助特論('15)	TV	自然環境科学プログラム	生物の種組成データの分析法('16)	OL
	心理・教育統計法特論('15)	R		現代物理科学の論理と方法('13)	R
	発達心理学特論('15)	TV		地球史を読み解く('16)	TV
	臨床心理学特論('17)	R		数理科学('15)	R
	臨床心理面接特論('13)	R		計算論('16)	R
	臨床心理学研究法特論('18)	R		コンピューティング('15)	R
	心理・教育統計法特論('15)	R		食健康科学('15)	TV
	発達心理学特論('15)	TV		環境工学('13)	TV
	現代社会心理学特論('15)	R		先端技術のための現代物理学('18)	OL
家族心理学特論('14)	TV	現代生物学('18)		OL	
精神医学特論('16)	R	宇宙、地球、そして人類('18)	OL		
障害児・障害者心理学特論('13)	R	計算で紐解く物質科学・環境科学('18)	OL		
学校臨床心理学・地域援助特論('15)	TV				
投影査定心理学特論('15)	R				
心理臨床における法と倫理('17)	R				

■ 単位互換協定締結校数の推移

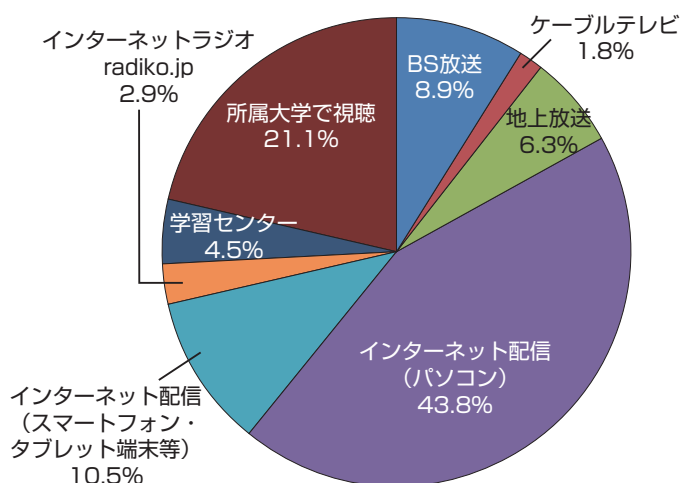


※各年度ともに11月1日時点

■ 授業料負担方法 (2017年度)



■ 視聴方法 (2016年度)



■ 特別聴講学生人気科目ランキング (2017年度)

	科目名	メディア名称	科目区分	受講者数
1	食と健康 ('12)	TV	専門科目 生活と福祉	837
2	英語の軌跡をたどる旅 ('13)	R	基盤科目 外国語	343
3	宇宙とその進化 ('15)	TV	専門科目 自然と環境	312
4	初歩からの物理 ('16)	TV	導入科目 自然と環境	181
5	韓国語I ('16)	TV	基盤科目 外国語	171
5	中国語I ('14)	TV	基盤科目 外国語	154
7	社会と銀行 ('14)	TV	専門科目 社会と産業	134
8	人口減少社会の構想 ('17)	TV	専門科目 社会と産業	129
9	生活環境と情報認知 ('15)	TV	専門科目 生活と福祉	127
9	博物館概論 ('11)	TV	導入科目 人間と文化	127

7. Q&A

○ 協定全般について

Q . 1 学部間の協定と大学院間の協定に何か違いはありますか。

- A. 手続き上の違いはありません。放送大学では単位互換協定を締結する場合、学部は学部（短期大学を含む。）と、大学院は大学院と、それぞれ協定を締結し、双方の学長間で調印の上、文書を取り交わすこととしています。学生の受け入れについては協定書に明記していますが、学部及び短期大学に在学する学生については本学学部の授業科目を、大学院に在学する学生については本学大学院の授業科目を、それぞれ履修することとなります。

※学部間の協定に基づいて本学大学院に出願することや、大学院間の協定に基づいて本学学部に出願することはできませんのでご注意ください。

Q . 2 高等専門学校が単位互換協定を締結する場合に注意する点がありますか。

- A. 高等専門学校が本学との単位互換を実施する場合は、本学学部と協定を締結することになります。本学が受け入れる学生は高等専門学校 4 年次、5 年次及び専攻科学生となります。それ以外は学部間の単位互換協定と違いはありません。

Q . 3 授業料の額及びその負担方法はどのようになっているのですか。

- A. 授業料は、学部では 1 科目（2 単位）について 11,000 円、または 1 科目（1 単位）について 5,500 円、大学院では 1 科目（2 単位）について 22,000 円を徴収することとしています。なお、教材費など授業料以外の経費の負担は一切不要です。

授業料の負担方法は、学生にとって単位互換制度を出来るだけ利用しやすくし、授業料の二重払いにならない為にも、貴学での負担をご検討していただくようお願いしています。

※負担方法の例

- ① 全額大学等で負担する。
- ② 一定割合を大学等で負担する。
(教材費相当分のみ学生負担とし、残額は大学等が負担するなど)
- ③ 出願時は学生が負担し、単位修得すれば大学等が返金をする。
(単位互換協定締結校の授業料負担方法の内訳につきましては P17 をご参照ください。)

○ 単位互換の科目について

Q . 4 単位互換に利用できる放送大学の科目はどのような科目ですか。

- A. 開設している放送授業・オンライン授業の中から選択していただけます。2018 年度の開設授業科目については P 14 ~ をご覧ください。

Q . 5 放送授業はどのように視聴すれば良いのですか。

- A. 放送授業は、BS 放送、地上放送〔関東一部エリア（2018 年 9 月末で終了予定）〕、ケーブルテレビ、放送大学の実施するインターネット配信、インターネットラジオ radiko.jp、学習センターでの視聴等によりご覧いただけます。視聴方法の詳細は、P9 をご参照ください。
また、単位互換校へは放送教材の DVD・CD の貸出制度があります。特定の時間に集団で視聴する形態で利用している大学等でご活用いただいています。

Q . 6 放送授業の講義内容を詳しく知るにはどうすれば良いのでしょうか。

- A. 出願時期には、次学期の開講科目の概要・試験時間等を記載した授業科目案内の冊子等の資料を本学より送付いたします。
より詳細な授業の内容につきましては、本学ホームページにシラバス（講義概要）を掲載していますのでご参照ください。
放送大学ホームページ <http://www.ouj.ac.jp> 内左列「授業科目（シラバス）」

○ 単位について

Q . 7 放送大学の単位の計算方法はどのようになっていますか。

A. 放送授業科目について

放送授業と印刷教材による授業から成り立っており、1科目は2単位としています。単位数については、「大学通信教育設置基準」に基づき1単位の履修時間を45時間とし、次のように計算しています。

- ① 印刷教材による授業については、45時間の学修を必要とする印刷教材等の学修をもって1単位とします。
- ② 放送授業については、1時間の放送授業15回に対して、2時間の準備のための学修を必要とするものとし、45時間の学習をもって1単位とします。

オンライン授業科目について

メディアを利用して行う授業から成り立っており、1科目は時間数に応じ、1単位もしくは2単位としています。単位数については、「大学通信教育設置基準」に基づき、オンライン講義（講義＋スライド等による学習）8時間とオンライン学修（講義以外の設問解答等）7時間を合わせた15時間に対し、それぞれ2時間の準備のための時間を必要とするものとし、45時間をもって1単位とします。

Q . 8 単位の認定はどのように行うのですか。

- A. 放送大学は、特別聴講学生の成績を本人と所属学長に通知しますので、これに基づいて各大学等では、協定で定めた単位数の範囲内で（設置基準上の上限は、大学の単位60単位、短大の場合30単位又は46単位、高等専門学校の場合30単位、大学院の場合10単位）、放送大学で修得した単位を各大学等の卒業要件となる単位として認定することになります。

Q . 9 単位認定試験の成績評価はどのようになっていますか。

- A. 単位認定試験の成績はⒶ（100点～90点）、A（89点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）、D（59点～50点）及びE（49点～0点）の6種類の評語をもって表し、Ⓐ、A、B及びCを合格とし、D及びEを不合格としています。

○ 試験について

Q . 10 通信指導及び単位認定試験は1回しか受けられないのですか。

- A. 通信指導、単位認定試験とも次の学期に限り再提出、再試験を受けることができます。再試験に際して手続きは特段必要ありません。通信指導が未提出の場合は通信指導が、単位認定試験が不合格の場合は受験票が、自動的に送付されます。
また、大学等が希望する場合、再試験を不可とする設定も可能です。
オンライン授業は通信指導および単位認定試験は行いません。よって、再試験もありません。単位を修得できなかった場合は、再度、科目登録申請が必要になります。なお、単位を修得した場合、科目の開講期間中は、復習のために授業の一部を視聴することができます。

Q . 11 単位認定試験の時期と実施場所はどのようになっていますか。

- A. 1学期の単位認定試験は7月下旬、2学期の単位認定試験は1月下旬となっています。
なお、試験の日程は、学生募集の時期に決定され、冊子「授業科目案内」に掲載していますので、履修科目を選択するに当たって参考にしてください。
また、単位認定試験は、通常は各学習センターで実施しますが、単位互換協定締結校においては、1科目の受験者が原則として40人を超える場合には、当該科目につき各大学等を会場として行うこともできます。ご利用の希望がありましたら、出願までに連携協力係まで必ずご相談ください。

8. 学習センターのご案内

特別聴講学生は、全国 57 ヶ所の学習センター・サテライトスペースを利用することができます。

■図書の利用

学生は図書を閲覧したり、貸出しを受けることができます。

■放送授業の再視聴

放送授業を視聴できなかった場合や繰り返し学習したい場合は、都合のよい日時に視聴することができます。

■土曜日・日曜日の利用

学習センターは、土曜日・日曜日にも開いていますので、平日が忙しい方でも利用することができます。(月曜・祝日・年末年始は休)

学習センター・サテライトスペース

北海道学習センター	〒060-0817	北海道札幌市北区北17条西8丁目(北海道大学札幌キャンパス情報教育館内)	☎011-736-6318
旭川サテライトスペース	〒070-0044	北海道旭川市常盤公園(旭川市常盤館内)	☎0166-22-2627
青森学習センター	〒036-8561	青森県弘前市文京町3(コラボ弘大7階)	☎0172-38-0500
八戸サテライトスペース	〒039-1102	青森県八戸市一番町1-9-22(八戸地域地場産業振興センター〔コートリー4階〕)	☎0178-70-1663
岩手学習センター	〒020-8550	岩手県盛岡市上田3-18-8(岩手大学構内)	☎019-653-7414
宮城学習センター	〒980-8577	宮城県仙台市青葉区片平2-1-1(東北大学片平キャンパス金属材料研究所内)	☎022-224-0651
秋田学習センター	〒010-8502	秋田県秋田市手形学園町1-1(秋田大手形キャンパス地方創生センター2号館4階)	☎018-831-1997
山形学習センター	〒990-8580	山形県山形市城南町1-1-1(霞城セントラル10階)	☎023-646-8836
福島学習センター	〒963-8025	福島県郡山市桑野1-22-21(郡山女子大学もみじ館内)	☎024-921-7471
いわきサテライトスペース	〒970-8023	福島県いわき市平鎌田字寿金沢22-1(東日本国際大学5号館5階)	☎0246-22-7318
茨城学習センター	〒310-0056	茨城県水戸市文京2-1-1(茨城大学キャンパス環境リサーチラボドリ1棟内)	☎029-228-0683
栃木学習センター	〒321-0943	栃木県宇都宮市峰町350(宇都宮大学峰キャンパス附属図書館内)	☎028-632-0572
群馬学習センター	〒371-0032	群馬県前橋市若宮町1-13-2(群馬県立図書館北)	☎027-230-1085
埼玉学習センター	〒330-0853	埼玉県さいたま市大宮区錦町682-2(大宮情報文化センター8・9・10階)	☎048-650-2611
千葉学習センター	〒261-8586	千葉県千葉市美浜区若葉2-11(放送大学本部敷地内)	☎043-298-4367
東京渋谷学習センター	〒150-0043	東京都渋谷区道玄坂1-10-7(五育英会ビル1階)	☎03-5428-3011
東京文京学習センター	〒112-0012	東京都文京区大塚3-29-1	☎03-5395-8688
東京足立学習センター	〒120-0034	東京都足立区千住5-13-5(学びピア21内)	☎03-5244-2760
東京多摩学習センター	〒187-0045	東京都小平市学園西町1-29-1(一橋大学小平国際キャンパス国際共同研究センター棟3階)	☎042-349-3467
神奈川学習センター	〒232-8510	神奈川県横浜市南区大岡2-31-1	☎045-710-1910
新潟学習センター	〒951-8122	新潟県新潟市中央区旭町通1番町754(新潟大学旭町キャンパス医学歯学図書館)	☎025-228-2651
富山学習センター	〒939-0311	富山県射水市黒河5180(富山県立大学計算機センター3階)	☎0766-56-9230
石川学習センター	〒921-8812	石川県野々市市扇が丘7-1(金沢工業大学内)	☎076-246-4029
福井学習センター	〒910-0858	福井県福井市手寄1丁目4-1(AOSSA7階)	☎0776-22-6361
山梨学習センター	〒400-0016	山梨県甲府市武田4-4-37(山梨大学構内)	☎055-251-2238
長野学習センター	〒392-0027	長野県諏訪市湖岸通り5-12-18(諏訪市公民館横(諏訪市文化センター敷地内))	☎0266-58-2332
岐阜学習センター	〒500-8384	岐阜県岐阜市数田南5-14-53(OKBふれあい会館第2棟2階)	☎058-273-9614
静岡学習センター	〒411-0033	静岡県三島市文教町1-3-93(静岡県立三島長陵高等学校2階)	☎055-989-1253
浜松サテライトスペース	〒430-0916	静岡県浜松市中区早馬町2-1(クリエート浜松2階)	☎053-453-3303
愛知学習センター	〒466-0825	愛知県名古屋市中区八事本町101-2(中京大学センタービル4階)	☎052-831-1771
三重学習センター	〒514-0061	三重県津市一身田上津部田1234(三重県総合文化センター内)	☎059-233-1170
滋賀学習センター	〒520-2123	滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5(龍谷大学瀬田キャンパス内)	☎077-545-0362
京都学習センター	〒600-8216	京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939番地(キャンパスプラザ京都3階)	☎075-371-3001
大阪学習センター	〒543-0054	大阪府大阪市天王寺区南堀町4-88(大阪教育大学天王寺キャンパス中央館内6・7階)	☎06-6773-6328
兵庫学習センター	〒657-8501	兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1(神戸大学六甲台キャンパスアカデミア館6・7階)	☎078-805-0052
姫路サテライトスペース	〒670-0012	兵庫県姫路市本町68-290(イークレひめじ地下2階内)	☎079-284-5788
奈良学習センター	〒630-8589	奈良県奈良市北魚屋東町(奈良女子大学コラボレーションセンター3階)	☎0742-20-7870
和歌山学習センター	〒641-0051	和歌山県和歌山市西高松1-7-20(和歌山大学松下会館内)	☎073-431-0360
鳥取学習センター	〒680-0845	鳥取県鳥取市富安2-138-4(鳥取市役所駅前庁舎5階)	☎0857-37-2351
島根学習センター	〒690-0061	島根県松江市白潟本町43(スティックビル4階)	☎0852-28-5500
岡山学習センター	〒700-0082	岡山県岡山市北区津島中3-1-1(岡山大学津島キャンパス文化科学系総合研究棟5階)	☎086-254-9240
広島学習センター	〒730-0053	広島県広島市中区東千田町1-1-89(広島大学東千田キャンパス東千田総合校舎内)	☎082-247-4030
福山サテライトスペース	〒720-0812	広島県福山市霞町1-10-1(まなびの館オーズコム3階)	☎084-991-2011
山口学習センター	〒753-0841	山口県山口市吉田1677-1(山口大学吉田キャンパス学生会館内)	☎083-928-2501
徳島学習センター	〒770-0855	徳島県徳島市新蔵町2-24(徳島大学新蔵キャンパス日亜会館3階)	☎088-602-0151
香川学習センター	〒760-0016	香川県高松市幸町1-1(香川大学幸町キャンパス研究交流棟内)	☎087-837-9877
愛媛学習センター	〒790-0826	愛媛県松山市文京町3(愛媛大学城北キャンパス総合情報メディアセンター棟内)	☎089-923-8544
高知学習センター	〒780-8072	高知県高知市曙町2-5-1(高知大学朝倉キャンパスメディアの森内)	☎088-843-4864
福岡学習センター	〒816-0811	福岡県春日市春日公園6-1(九州大学筑紫キャンパスE棟4.5階)	☎092-585-3033
北九州サテライトスペース	〒806-0021	福岡県北九州市八幡西区黒崎3-15-3(コムシティ3階)	☎093-645-3201
佐賀学習センター	〒840-0815	佐賀県佐賀市天神3-2-11(アバンセ4階内)	☎0952-22-3308
長崎学習センター	〒852-8521	長崎県長崎市文教町1-14(長崎大学文教キャンパス内)	☎095-813-1317
熊本学習センター	〒860-8555	熊本県熊本市中央区黒髪2-40-1(熊本大学黒髪キャンパス附属図書館南棟2F)	☎096-341-0860
大分学習センター	〒870-0868	大分県別府市北石垣82 別府大学別府キャンパス39号館2階	☎097-549-6612
宮崎学習センター	〒883-8510	宮崎県日向市本町11-11	☎0982-53-1893
鹿児島学習センター	〒892-8790	鹿児島県鹿児島市山下町14-50(かごしま県民交流センター西棟4階)	☎099-239-3811
沖縄学習センター	〒903-0129	沖縄県中頭郡西原町字千原1(琉球大学地域国際学習センター棟内)	☎098-895-5952

放送大学は、日本全国津々浦々。

全国 57ヶ所のキャンパスであなたの学びをサポートします。



北海道(ヒグマ)



旭川サテライトスペース(旭山動物園)



青森(りんご)



八戸サテライトスペース(ウミネコ)



岩手(銀河鉄道)



宮城(七夕)



秋田(なまはげ)



山形(さくらんぼ)



福島(野口英世)



いわきサテライトスペース(フラダンス)



茨城(印籠)



栃木(いちご)



群馬(だるま)



埼玉(岩槻人形)



千葉(成田空港)



渋谷(ハチ公)



文京(東京ドーム)



足立(松尾芭蕉)



多摩(小平の丸ポスト)



神奈川(みなとみらい)



新潟(米俵)



富山(チューリップ)



石川(こじり灯籠)



福井(越前ガニ)



山梨(武田信玄)



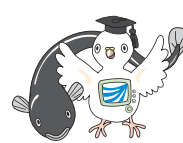
長野(御柱祭)



岐阜(さるぼぼ)



静岡(富士山)



浜松サテライトスペース(うなぎ)



愛知(シャチホコ)



三重(伊勢エビ)



滋賀(琵琶湖と井伊直政)



京都(舞妓さん)



大阪(千成瓢箪)



兵庫(港)



姫路サテライトスペース(姫路城)



奈良(鹿)



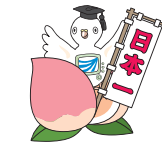
和歌山(くじら)



鳥取(鳥取砂丘)



鳥取(どじょうすくい)



岡山(もも)



広島(牡蠣)



福山サテライトスペース(バラ園)



山口(ふぐ)



徳島(阿波踊り)



香川(うどん)



愛媛(みかん)



高知(坂本龍馬)



福岡(博多祇園山笠)



北九州サテライトスペース(小倉祇園太鼓)



佐賀(吉野ヶ里遺跡)



長崎(くんち)



熊本(熊本城)



大分(しいたけ)



宮崎(サーフィン)



鹿児島(桜島)



沖縄(守礼門)



放送大学
THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

〒261-8586
千葉県美浜区若葉 2-11
TEL 043-298-4256
Mail renkei@ouj.ac.jp